

# 第22回埼玉県学童保育指導員基礎講座

## 【 学びたいこと・考えたいこと 】

指導員の仕事は、共働き家庭の子どもたちの生活を守ることを通して親の働く権利を保障することです。子どもたちは、一人ひとり違う個性を持ち、様々な思いを胸に帰ってきます。指導員には、そうした子どもの発する信号を受けとめる努力が求められます。そして、一人ひとりが放課後の生活の場として、毎日、安心して帰って来られる“居場所”となれるような学童保育をつくっていくことが求められています。

子どもは、自分のことをわかってくれる指導員や友だちがいるという実感があって、初めて安心して生活でき、いろんなことに挑戦していく力を持つことができます。そのためには指導員が一人ひとりの子どもをしっかり受けとめ、信頼関係をつくる必要があります。

学童保育でも、「死ね、消えろ、うざい」等のことばを発する「荒れた」子どもの姿が目につくようになっていきます。こうした子どもたちの背景には何があるのでしょうか？

今日の日本社会は、子どもがのびやかに育っていくことを難しくしています。子どもたちは、「高度に競争的な教育制度」のもとで早い時期から「できる子」「できない子」に選別され、ストレスをためこんでいます。それは、いじめ、不登校、学級崩壊、行動の「荒れ」などという形で表れています。

一方、親たちも、「雇用破壊」と呼ばれる今日の労働環境のもとで、仕事の「効率化・合理化」をせまられ、正社員は長時間労働をせまられ、非正社員は低収入で不安定なままに置かれ、仕事と家庭・子育ての両立を難しくさせられています。

もちろん指導員は、子どもの「荒れた」ことばや行動に無関心ではられません。特に、友だちを傷つける言動などに対しては、しっかりかかわっていく必要があります。しかし同時に、子どもたちのことばの裏にある本当の願いをさぐり、ねばり強く心を寄せていくことが求められているのではないのでしょうか。

今回の基礎講座では、そんなことを一緒に考えたいと思います。

指導員のみなさん、新しい年度がスタートして2ヶ月余。新1年生も自分を出せてくるころでしょうか。指導員基礎講座を開催します。この研修会は、年度初めに当たって、今日の学童保育と指導員をめぐる情勢のもとで、ここを大事にしていこう、ここに力を入れていこうという事柄について確かめ、学び合う場として開催してきました。

【日 時】2007年6月27日(水) 9:40~11:30(9:20開場)

【場 所】さいたま市産業文化センター( 地図参照)

【受講料】県連協・指連協会員は無料、非会員は300円

【講 義】子どもと親を受けとめ励ます指導員の仕事  
~子どもと親の生きづらさに心を寄せて~

【講 師】亀卦川 茂さん  
( 富士見市水谷放課後児童クラブ指導員)

主催 / 埼玉県学童保育連絡協議会・同指導員連絡協議会 後援 / 埼玉県

〒 330-0854 さいたま市大宮区桜木町4 - 1005

T E L 048(644)1571 F A X 048(644)1572 e-mail gakudoust@yahoo.co.jp

...日々の実践のなかで「子どもたちと働きながら子育てをする親たちを受けとめ励ます」...  
ということを大切にしてきました。しかし、子どもたちの日々みせる姿に「受けとめよう」と  
いう意志が揺らいでしまうのです。

一年生の女の子を迎える場面です。

指導員「おかえり」 / 子「うっせえんだよ。ジジイ(ランドセルを放り投げる)」 / 指「なん  
でジジイなんだか。ほら。ロッカーにちゃんとランドセルしまっちゃいなよ」 / 子「あんたが  
しまっといて」 / 指「いい加減にしな。自分でちゃんとしまいな(腕を掴んでランドセルの前  
に連れていく)」 / ... / 子(涙目で)「はい。誤ればいいんでしょ。ごめんなさい」 / 指「ご  
めんなさいとかそういうことじゃないよ」 / 周りの子「ああ。悪いんだ。おとなのくせに子  
どものことを泣かせてる」

こんなやりとりで、学童保育の生活が始まったりすることもあるのです。

亀卦川茂「『攻撃性』にのせたメッセージ」(雑誌『教育』2007年2月号)